



この榊細工のトレーは、ディオールブランド以外に富岡商店の自社ブランド製品としても本社ショップ「香月」(角館武家屋敷通り)で購入できる。写真の撮影場所は、現存する角館の武家屋敷の中で最も格式の高い石黒家のお座敷。

今年のゴールデンウィークもみちのくの京都角館は多くの観光客で賑わった。一年前は震災の影響で客足が途絶え、かつてないほどの寂しい春であったから、桜の季節に角館が賑わうといういつも通りのことに、今年は感慨もひとしおなのである。

角館は伝統工芸品榊細工の産地で、定番的なみやげ品でもある。大小の生活道具をヤマザクラの樹皮で美しく覆うという気品漂う造形には、城下町角館の武士の手内職から始まったという榊細工ならではの味わいがある。

そんな榊細工の製造元の一つ、角館の富岡商店の富岡浩樹社長は、今年2月にドイツのフランクフルトで開かれた国際見本市に自社の榊細工のトレーを持ち込んだ。才気あふれるデザイナーを起用し、伝統の技を駆使しつつも現代的感覚を盛り込んだ新作榊細工製品だ。

通常、このような見本市では何度か出展

を繰り返さないとなかなか商談にはこぎ着けられないものなのだそうだが、富岡商店には初回でいきなり大きな商談が持ちかけられた。かの世界的ファッションブランド、クリスチャン・ディオールからのオファーだ。同社のバイヤーが優美な榊細工のトレーを気に入り、これにディオールのマークを入れて自社の商品として販売したいと申し入れてきた。

秋田生まれの榊細工製品がディオールの製品として売られ、世界中の家庭で使われる…、なんと夢のある話であることか。ともすると衰退の一途をたどりかねない伝統工芸の世界で、「なんととしても産地の火を絶やしたくない」と言い続けてきた富岡社長の思いが天に通じた瞬間だったとも言えようか。

このトレーは、ベースは大館曲げわっぱであり、それを榊細工の技法で美しく装飾したものだ。奇しくも秋田の二つの伝統工芸のコラボが海外で評価されたということ。秋田全体でこのニュースを大いに喜びたいものだ。

## サムライ、海を渡る